

深夜の給湯器 近隣トラブル

「低周波音で健康被害」訴訟も

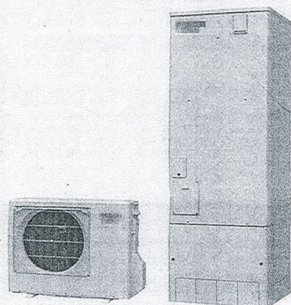
深夜電力を使った省エネ給湯器「エコキュート」が隣家などに設置されたため、作動時の低周波音でめまいや不眠などの被害を受けたとして、群馬、岩手、神奈川の各県の住民がメーカーなどに損害賠償を求め、訴訟を各地の地裁に起こした。深夜に動くエコキュートを巡っては騒音苦情が出ており、業界団体も対策に乗り出している。

■訴訟に発展した事例 (訴状による)

場所	経緯	賠償請求の相手
群馬県高崎市 (前橋地裁 高崎支部)	新築住宅がエコキュートを導入。隣家の夫婦が不眠症や自律神経失調症の診断	メーカー、施工会社
岩手県北上市 (盛岡地裁)	うどんチェーン店がエコキュートを導入。隣家の住民が不眠症や適応障害の診断	メーカー、施工会社、運送会社、営会社
神奈川県鎌倉市 (横浜地裁)	新築住宅がエコキュートを導入。隣家の主婦がめまいや頭痛、中枢神経障害の診断	メーカー、施工会社

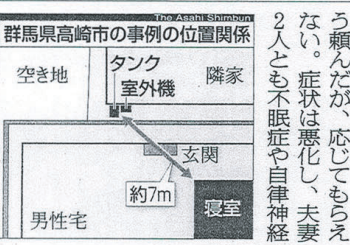
エコキュート

外気熱を利用して湯を沸かす「ヒートポンプ」という技術を使った電気給湯器。電気料金の安い夜間に室外機で湯を沸かし、貯湯タンクにためる仕組み。省エネ性能が優れ、夜間電力の利用促進にもつながる。経済産業省が昨年9月まで補助金を出して導入を推奨。自治体が独自の補助金を出す例もあり、今年9月には家庭用の累計出荷台数が300万台を超えた。空気を圧縮するコンプレッサの回転数が高くなると低周波音も増大する傾向があるとされる。



エコキュート室外機(左)と貯湯タンクの例=メーカーのホームページから(画像を一部修整しています)

「夜中に『ブーン』という音を感じ、目が覚めるようになったんです」。群馬県高崎市の男性(50)は2009年2月に隣に家が新築されて以降、深夜に低い音に悩まされるようになった。音は明け方まで続き、妻(48)も圧迫感や吐き気を感じるようになった。寝室は玄関近くの和室。ほどなくして、体調が悪く、時々はいつも玄関のそばにある隣家のエコキュート室外機が作動していることに気がついた。



「頼んだが、応じてもうえない。症状は悪化し、夫妻2人とも不眠症や自律神経失調症の診断を受けた。同居する高校生の次男は体調に異変はないという。夫妻は文獻やインターネットで調べ、人によって感受性に差がある低周波音の被害だと考えた。男性は今年7月、機器メーカーと住宅メーカーに損害賠償を求め、前橋地裁高崎支部に提訴した。

業界が騒音対策 影響に個人差も

「室外機は隣家の寝室のそばは避ける」「窓や通風口から極力距離を取る」。エコキュートのメーカー15社が加盟する日本冷凍空調工業会は4月、騒音対策をまとめたガイドブックを出した。同工業会は取材に「運転音と健康被害の関係

は把握できていないが、夜中にうるさいという苦情はまれにあり、より安心して使ってもらえるように」とコメントしている。環境省によると、低周波音は人に不快感や圧迫感を与えたり、睡眠を妨げたりすることが明らかになって

いる。しかし、同省は「頭痛や自律神経失調症などの症状との因果関係は医学的に明確ではない」との立場だ。低周波音を規制する環境基準もなく、すでに設置された機器については住民同士で話し合っ解決するしかないのが実情という。

3件の訴訟で原告代理人を務める群馬弁護士会の井坂和広弁護士はエコキュートを巡る相談を多く受けている。「低周波音を苦痛に感じるかどうかは個人差が大きく、隣家に室外機の移動を求めても理解されないことが多い」と話す。

聞の取材に「低周波音は出ているが、健康に被害を与えるものではないと考えている。健康被害との因果関係は科学的に証明されていないはずだ」と回答。住宅メーカー側も裁判で「稼働音が法令に抵触しないことを確認して設置している」と反論しており、いずれも全面的に争う姿勢だ。エコキュートをめぐっては、10月に盛岡地裁、11月に横浜地裁でも同様の被害を訴える住民が提訴した。国民生活センターが群馬の原告側に開示した資料によると、エコキュートの低周波音や騒音をめぐる相談は00～10年に少なくとも46件。環境省によると、数は調べていないが、全国の自治体へも同様の相談が増えているという。

埋もれた事例多い 環境問題に詳しい東京大学大学院の清水亮准教授(社会学)の話。低周波音の健康被害は風車によるものが知られている。風車は被害が同一地域に広がるが、エコキュートで影響を受けるのは隣家だけ。似たケースが周囲に無いため原因に気が付くのに時間がかかり、埋もれている事例が多いと思う。低周波音の影響は個人差が大きく、症状が出る人は少数だ。メーカーは設置者に事前に隣家に影響が出る可能性を十分説明し対応策も積極的に示すべきだ。設置場所など問題 日本騒音制御工学会の堀江侑史事務局長の話。5～6年前からエコキュートの音に関する苦情が目立ち始めた。低周波音で苦情が出ているのは事実だ。多くの場合、機械の設置方法や場所に問題があり、移動すれば被害は解消する。施工業者やメーカーは、被害が出た時は移動などの対策をとってほしい。日本冷凍空調工業会が作った設置方法のガイドブックもさらに普及させる必要がある。

(太田泉生、植松佳香)